

平成29年度版 飛騨・美濃じまん白書



平成28年度 飛騨・美濃じまん運動の進捗について

岐阜県観光国際局

目次

P

第1章 岐阜県の観光の現状

1 本県の観光の現状	
～平成28年岐阜県観光入込客統計調査～	
(1) 観光入込客数及び観光消費額	1
(2) 観光地点別の集客数	2
(3) 行祭事・イベント入込客数	3
(4) 観光客の内訳	3
(5) 外国人宿泊客数	5
(6) 経済波及効果	5

第2章 「観光王国飛騨・美濃」に向けて実施した主な取組み

1 地域特性を活かした宿泊滞在型観光地「清流の国ぎふ観光回廊」づくり	
(1) 観光資源間の連携促進	6
(2) 観光資源の更なる魅力向上	13
(3) 受入体制の強化・充実	24
2 大都市圏をメインターゲットとした国内誘客の促進	26
(1) 様々な情報媒体を活用した魅力発信	27
(2) 集客に直結するキャンペーン・イベントの展開	31
(3) 魅力ある旅行商品の造成促進	
3 海外の動向を踏まえた誘客戦略の展開	
(1) プロモーション活動の継続的かつ着実な展開	32
(2) 外国人向けの魅力的な旅行商品の造成・販売	35
(3) ターゲット市場の的確なマーケティング	36

参考資料

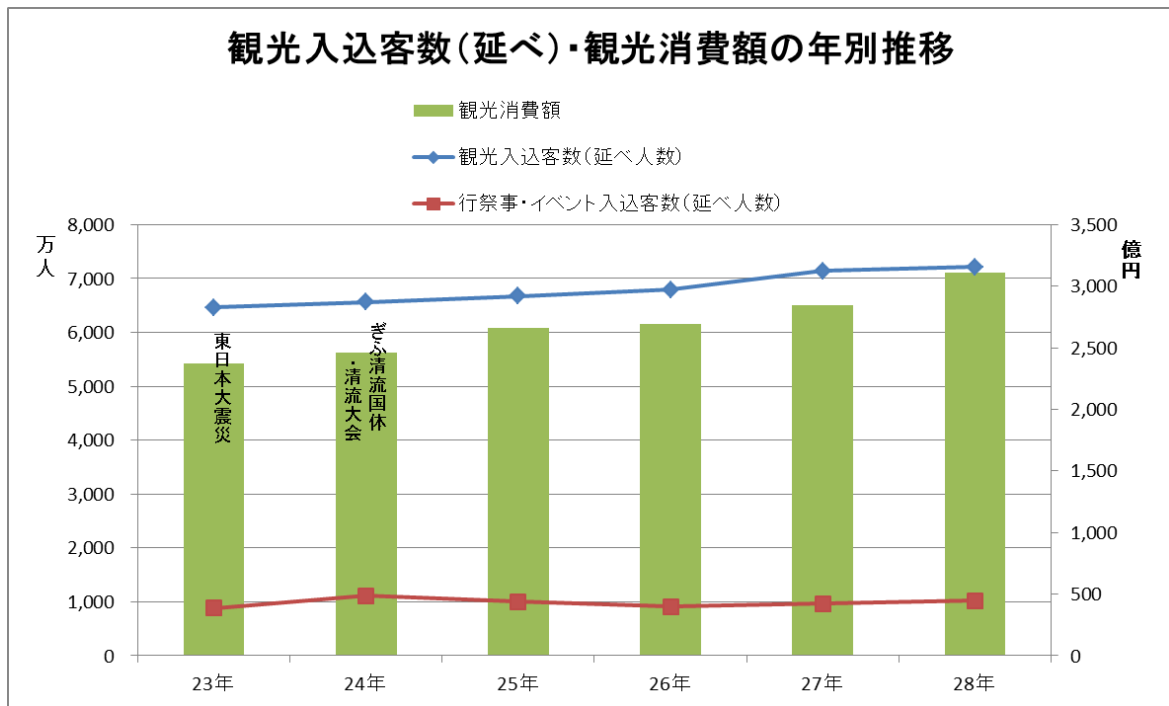
1 みんなでつくろう観光王国飛騨・美濃条例	38
2 「清流の国ぎふ」憲章	41

1

岐阜県の観光の現状

1 本県の観光の現状 ～平成28年岐阜県観光入込客統計調査より～

(1) 観光入込客数及び観光消費額



区 分		平成28年(対前年比)	参考：平成27年
観光入込客数(延べ人数)		7,212万2千人 (+1.0%)	7,139万5千人
行祭事・イベント入込客数(延べ人数)		1,019万2千人 (+5.4%)	967万3千人
観光消費額	全 体	3,113億80百万円 (+9.5%)	2,843億74百万円
	日帰り客	1,681億80百万円 (+36.9%)	1,228億16百万円
	宿泊客	1,432億円 (△11.4%)	1,615億58百万円

※平成23年の調査より、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」を導入し、調査手法を変更している。

※千人未満を四捨五入しているため、対前年比に誤差が生じることや、内訳の計と合計が一致しないことがある。

- 観光入込客数(延べ人数)**は、7,212万2千人(対前年比+1.0%)、
行祭事・イベント入込客数(延べ人数)は、1,019万2千人(対前年比+5.4%)と、
 いずれも前年に比べて増加している。

- 観光消費額**の総額は3,113億80百万円（対前年比+9.5%）で、うち日帰り客分は1,681億80百万円（対前年比+36.9%）、宿泊客分は1,432億円（対前年比△11.4%）であった。
- 主な傾向**は、以下のとおり。
 - ・1年を通じて概ね天候に恵まれ、前年に引き続き旅行しやすい環境にあったと考えられ、全体として入込客数は増加している。
ただし、GWなど休日の日並びが前年より良くなかったこともあり、日帰り客数は伸びているが、宿泊客数は減少している。
 - ・観光消費額は、一人当たりの平均消費額について、日帰り客分が大きく伸びた（3,292円→4,114円）反面、宿泊客分は減少している（25,688円→23,544円）。
宿泊客分の減少については、前年のふるさと旅行券利用の反動減を補うため割引価格で販売されたり、中国人団体観光客向けに宿泊単価を引き下げて提供された事案もあったということで、要因の一つと考えられる。
 - ・外国人観光客（実人数）については、前年までの伸び率から落ち着きをみせているものの、堅調な伸びをみせている。

(2) 観光地点別の集客数（県内トップ10）

（単位：万人）

順位	観光地点名	入込客数	参考：27年	
			順位	入込客数
1	土岐プレミアム・アウトレット	733.5	1	735.8
2	河川環境楽園（アクア・トぎふ含む）（各務原市）	503.2	2	505.2
3	高山市街地エリア	361.2	3	346.2
4	白川郷合掌造り集落（白川村）	187.3	5	161.2
5	千代保稲荷神社（海津市）	164.2	4	162.9
6	湯の華アイランド（可児市）	159.9	6	154.6
7	伊奈波神社（岐阜市）	149.7	8	149.7
8	千本松原・国営木曾三川公園（海津市）	145.0	7	153.4
9	世界イベント村ぎふ（岐阜メモリアルセンター）（岐阜市）	130.5	9	144.0
10	下呂温泉（旅館の宿泊利用及び日帰り利用）	119.5	10	113.1

- 観光地点毎の入込客数は、1位から3位までの地点の順位に変動はなかった。
- 平成27年3月の北陸新幹線延伸開業以来、前年に引き続き飛騨地域の主要観光地の入込客数が伸びており、特に、白川郷合掌造り集落は前年比16%増で順位を4位に上げている。暖冬の影響により冬期でも道路状況が良かったことや、北陸新幹線延伸

開業をふまえ、金沢～白川郷間の高速バスが増便されたこと（平成28年4月）、そのほか、映画「君の名は。」（平成28年8月公開）のヒットにより、舞台のモデルとなった飛騨地域への注目度が高まったこと等が入込客の増加につながったと考えられる。

*参考：飛騨古川 古い町並み（飛騨市） 27.1万人（前年比13.5%増）

（3）行祭事・イベント入込客数（県内トップ10）

（単位：万人）

順位	行祭事・イベント名	入込客数	参考：27年	
			順位	入込客数
1	長良川花火大会（岐阜市）	70.0	1	80.0
2	ぎふ信長まつり（岐阜市）	40.0	2	40.0
3	高山祭	31.7	10	23.9
4	郡上おどり	31.4	3	32.0
5	大垣まつり	31.0	4	27.0
6	元気ハツラツ市（大垣市）	30.5	5	26.0
7	道三まつり（岐阜市）	30.0	8	24.0
8	土岐美濃焼まつり	27.0	6	25.0
	各務原市桜まつり	27.0	13	20.0
10	刃物まつり（関市）	25.0	6	25.0

○行祭事・イベント毎の入込客数の県内トップは、昨年と同じ「長良川花火大会」（岐阜市）で70万人、2位が「ぎふ信長まつり」（岐阜市）で40万人、3位が「高山祭」（高山市）で32万人となった。

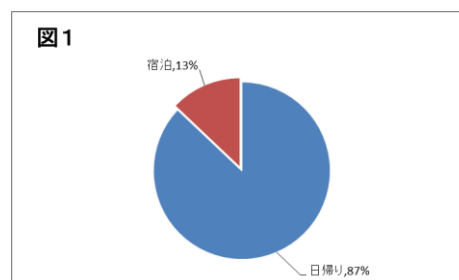
○天候によって入込が大きく変動するため、前年に比べ天候に恵まれた「高山祭」や「各務原市桜まつり」が大幅に入込客数を伸ばして上位にランクインした。

（4）観光客の内訳

①日帰り・宿泊別観光客数（実人数）

区分	平成28年（対前年比）	参考：平成27年
全体	4,696万2千人（+7.7%）	4,360万1千人
日帰り客	4,088万0千人（+9.6%）	3,731万1千人
宿泊客	608万2千人（△3.3%）	628万9千人

平成28年の観光入込客数（実人数）は4,696万2千人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は4,088万人、宿泊客は608万2千人であり、依然として日帰り客が多い。（図1）

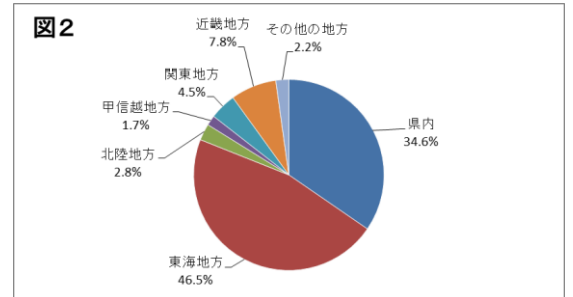


②居住地別観光入込客数

居住地別に見ると、県全体では県内客は1,623万8千人（構成比34.6%）、県外客は3,072万4千人（構成比65.4%）と、県外客が多くを占めた。特に飛騨圏域では県外客の割合が82.2%と高い。

県外客のうち約7割が東海地方からの観光客であり、以下近畿、関東地方と続いている。

（図2）

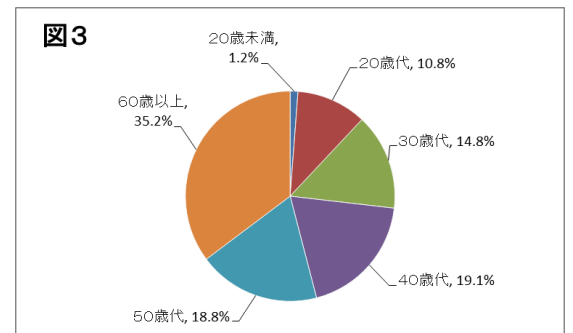


③男女別・年齢別観光入込客数

男女別で見ると、男性が2,382万2千人（構成比50.7%）、女性は2,314万人（構成比49.3%）と前年に引き続き男性が多かったものの、女性の観光入込客数が増えている。

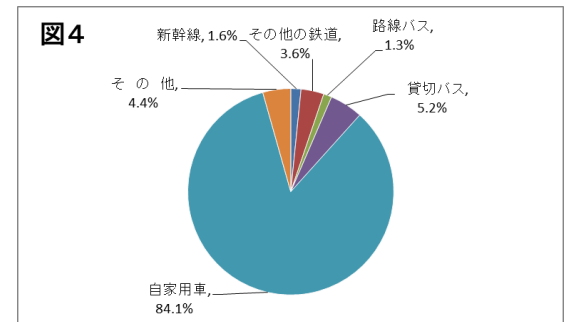
年齢別では、60歳以上が35.2%と最も多く、続いて40歳代、50歳代が多い傾向は変わらないが、20歳代以下の若年層が増えている

（10.7%→12%）。（図3）



④利用交通機関別観光入込客数

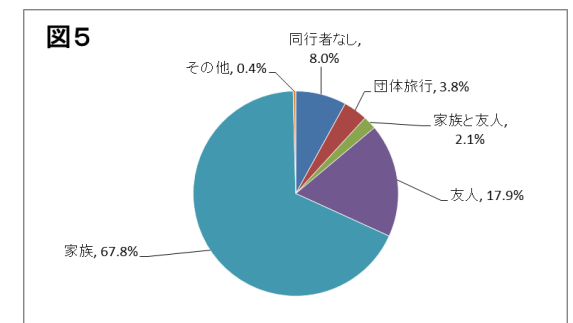
利用交通機関別に見ると、自家用車が最も多く全体の84.1%を占め、鉄道や路線バスなどの公共交通機関の割合は低い。（図4）



⑤ 同行者人数別観光入込客数

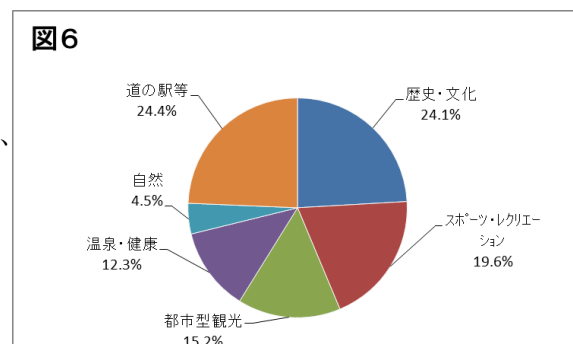
同行者人数別に見ると、「(本人を含め) 2～3人」が最も多く全体の65.2%を占め、続いて「(本人を含め) 4～5人」が17.2%であった。

同行者別に見ると、「団体旅行」の割合は全体の3.8%にとどまり、「家族」が67.8%と最も多く、次いで「友人」17.9%と個人旅行が主流となっている。（図5）



⑥観光地分類別観光入込客数

観光地分類別に見ると、「道の駅等」、「歴史・文化」、「スポーツ・レクリエーション」の順に多く、以下、「都市型観光（買物・食等）」、「温泉・健康」、「自然」と続く。（図6）



(5) 外国人宿泊客数

外国人の宿泊者数（延べ人数）は101.3万人となり、対前年比+8.9%と増加した。国籍別に見ると、中国が19.8万人で最多、次いで台湾15.8万人、香港11.6万人と続いている。ベトナム、香港、インドネシアなどアジア圏のほか、イタリア、ドイツなど欧州からの宿泊も伸びている。

出典）観光庁「宿泊旅行統計調査」（平成28年1月～12月）

(6) 経済波及効果（試算）

平成28年の県内観光消費による経済波及効果（観光関連産業の経済波及効果）を試算したところ、生産誘発額は4,601億12百万円、就業誘発効果は、44,868人となった。

2

「観光王国飛騨・美濃」に向けて実施した主な取組み

1 地域特性を活かした宿泊滞在型観光地「清流の国ぎふ観光回廊」づくり

(1) 観光資源間の連携促進

■「岐阜の宝もの」活用プロジェクトの推進

県民一人ひとりが考えるふるさとのじまんを募集した中から、全国に通用する観光資源となることが期待される「岐阜の宝もの」を5件、それに次ぐ「明日の宝もの」を11件認定し、地域が主体となった地域資源の魅力向上に向けた取組みを支援してきた。平成25年度からは、これまでに掘り起こし、磨き上げてきた「岐阜の宝もの」等の新たな観光資源と既存の有名観光資源等との連携を促進し、県内宿泊と県内周遊の必然性向上を図る取組みを推進している。

岐阜の宝もの	小坂の滝めぐり、東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋、 乗鞍山麓五色ヶ原の森、天生県立自然公園と三湿原回廊、 中山道ぎふ17宿 ※平成28年度末時点
--------	--

○「中山道ぎふ17宿」を活用した街道観光の推進

「中山道ぎふ17宿」の更なる魅力向上と、沿線関係者の連携強化、地域における運営体制の構築をめざし、各種プログラムの開発・ブラッシュアップ、人材育成、情報発信等を展開。秋には、シンボルイベントとなる「中山道ぎふ17宿歩き旅2016」を開催した。

(中山道ぎふ17宿歩き旅2016)

- ・期 間：平成28年10月1日(土)～11月27日(日)
- ・内 容：体験プログラム(43プログラム)、散策プログラム(22プログラム)、ウォーキングプログラム(4コース)、スタンプラリー
- ・参加者：約5,600人



ウォーキングプログラム

○地歌舞伎と芝居小屋を活用した観光誘客の推進

「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」の認知度向上を図り、県内への誘客を促進するため、地元の地歌舞伎保存団体や行政、観光事業者等と連携し、観光地等における特別公演や体験プログラム等を実施した。

- ・英語解説付き特別公演等 47回開催
- ・参加者数 3,640人（うち外国人1,261人）



馬籠宿での特別公演



歌舞伎扮装体験

■観光資源間の連携による宿泊滞在型モデル地域の創出

○「清流の国ぎふ」観光回廊づくり推進事業費補助金

本県の恵まれた地域資源・地域特性を活かし、県内の周遊性、滞在時間等を増加させるため、地域主体の広域的な連携や役割分担による取組みに対して、支援を行った。

- ・平成28年度交付件数：18件

■主要観光地の再生

○充実する交通インフラを活かした主要観光資源の誘客強化

東海環状自動車道の整備や平成39年のリニア中央新幹線開業など、今後、本県の交通インフラはますます充実する。これを本県の観光入込客の拡大に向けて最大限活かすため、市町村等と連携し、主要な観光資源の魅力向上や再整備を行った。

（関ヶ原古戦場）

関ヶ原古戦場は、壬申の乱、関ヶ原の戦いと天下分け目の合戦が2度繰り広げられた場所であり、歴史資源としての知名度も高い。さらに、近隣には墨俣一夜城や岐阜城など、戦国時代にまつわる資源が多く存在することから、関ヶ原古戦場を核とした滞在・周遊型観光の促進に向け、平成27年3月に策定した「関ヶ原古戦場グランドデザイン」に基づき、観光客受入環境の整備、関ヶ原の魅力発信の強化を行った。

- ・史跡の整備（文化庁補助金活用）

決戦地・石田三成陣地の修景など史跡整備を支援

- ・ 史跡案内サインの設置
 - 関ヶ原町及び周辺市町に広域案内サイン2基、解説サイン34基、誘導サイン64基を設置
- ・ 関ヶ原古戦場ビジターセンター（仮称）の整備
 - 東京オリンピック・パラリンピックイヤーである2020年のオープンに向け、整備を推進
- ・ 関ヶ原七武将シリーズイベントの開催（6月、10月）
 - ＜関ヶ原 武将シリーズ第一弾～徳川家康～＞
 - [期 間] 平成28年6月18日(土)・19日(日)
 - [会 場] 関ヶ原ふれあいセンター・同ステージ、陣場野公園ほか
 - [参加者] 約5,000人
 - [事 業]
 - ・ 徳川家康歴史トーク
 - ・ 関ヶ原七武将 甲冑劇「徳川家康 天下泰平」
 - ・ 徳川家康講演会
 - ・ 武将隊演武
 - ・ グルメ対決！関ヶ原戦国屋台村
 - ・ ウォーキング
 - [備 考] 熊本城復興支援の義捐金として2日間で集まった約30万円を寄付
 - ＜関ヶ原 武将シリーズ第二弾～石田三成～＞
 - [期 間] 平成28年10月15日(土)～23日(日)
 - [会 場] 関ヶ原ふれあいセンター・同ステージ、陣場野公園ほか
 - [参加者] 約10万人
 - [事 業]
 - ・ 石田三成歴史トーク
 - ・ 演劇「三成の義」
 - ・ 全軍武者行列
 - ・ 中部古戦場シンポジウム
 - ・ 東西武将グルメバトル
 - ・ マンガ「ドリフターズ」原画展
 - ・ 世界三大古戦場ゲティスバーグ特別展
 - ・ ウォーキング
- ・ 海外古戦場との交流
 - ゲティスバーグ古戦場（アメリカ）との連携協定締結を支援。
- ・ 関ヶ原駅前観光交流館での広域物産販売等の支援
 - 駅前観光交流館物販コーナーにおける武将ゆかりの地や海外古戦場の特産品開発・販売活動を支援。

・西濃広域連携イベント

大垣市、垂井町、関ヶ原町と連携した講演会や体験事業などを実施。

開催日・会場	イベント名
9月4日(日)	笠松町 講演会「関ヶ原合戦の新しい歴史像」
10月8日(土)～9日(日)	関市 武将「大嶋雲八」を活用した体感型イベント
10月9日(日)	大垣市 大垣城鉄砲隊演武
10月15日(土)～16日(日)	関ヶ原町 関ヶ原合戦祭り
11月5日(土)～6日(日)	垂井町 合戦太鼓・甲冑演武等歴史イベント
2月1日(水)～3日21日(火)	西濃地域 スマホスタンプラリー(大垣城、海津市歴史民俗資料館、垂井城跡他)
2月26日(日)	輪之内町 丸毛サミット～福東城主・丸毛兼利～

(恵那山南山麓)

2027年のリニア中央新幹線開業を見据え、平成23年度に「明日の宝もの」に認定された「岩村城跡と岩村城下町」が所在する恵那山南山麓のさらなる魅力向上や、「明知鉄道」など周辺観光資源と組み合わせた滞在・周遊型観光推進に向け、恵那市が実施する観光振興の取組みを支援した。

- ・岩村城下町の修景整備(案内看板の設置等)
- ・岩村城下町における体験プログラムの実施、まち歩きクーポンの作成
- ・岩村地域の特産品を活用したご当地グルメの商品化
- ・女城主キャンペーンの実施 等

(県営4公園の誘客強化)

県営公園の中でも集客力が高く、かつ、対策を施すことで誘客の強化が期待できる「花フェスタ記念公園」(可児市)、「平成記念公園日本昭和村」(美濃加茂市)、「養老公園」(養老町)、「世界淡水魚園・世界淡水魚園水族館」(各務原市)の活性化を図るため、学識経験者や観光振興などの有識者からなる「岐阜県都市公園活性化懇談会」を開催し、様々な意見を集約しながら、平成28年10月に「岐阜県都市公園活性化基本戦略」を策定した。この戦略に基づき、ハード・ソフト両面から活性化に向けた取組みを進めている。

誘客促進の観点からは、各公園の指定管理者と連携して集客効果の高いイベントの開催や施設の魅力向上のための補助など誘客拡大に向けた取組みを推進した。

○花フェスタ記念公園

- ・「花フェスタ2015ぎふ」の成果を継承・発展させ、世界に誇るバラ園を有する花フェスタ記念公園の魅力や「清流の国ぎふ」の地域資源の魅力を国内

外へ発信することで、交流産業をはじめ地域振興に繋げることを目的として、「春のバラまつり」及び「秋のバラまつり」を開催した。

- ・開催期間：平成28年5月14日（土）～ 6月19日（日） 37日間
（春のバラまつり）
平成28年10月8日（土）～11月13日（日） 37日間
（秋のバラまつり）
- ・来場者数：175,375人（春のバラまつり37日間）
65,926人（秋のバラまつり37日間）

○平成記念公園日本昭和村

- ・稲わらアート、里山アート、みのかも市民まつり等をはじめとする、指定管理者と地元市町の連携事業を開催した。

○養老公園

- ・滝谷沿い（左岸）園路の愛称を一般に公募し、応募の中から「養老孝子坂」に決定した。また、愛称に親しんでもらうため、愛称を冠したウェルカムゲートを設置した。
- ・滝谷商店通りの店舗修景への補助を実施した（3件）。

○世界淡水魚園・世界淡水魚園水族館

- ・指定管理者主催のバックヤードツアー、ナイトツアーなどのほか、県主催のGIAHS鮎の日イベントを実施した。

（かかみがはら航空宇宙科学博物館）

航空宇宙産業の集積地の中核施設としてのPR、子供たちを同産業の人材確保につなげるための拠点としての活用とともに、産業観光施設として集客を図るため、平成30年3月の再オープンを目指し、同博物館のリニューアルに取り組んでいる。

平成28年度は、リニューアル工事に着手する一方、リニューアルの機運を高め、再オープン後の来館に繋げるため、収蔵庫におけるプレオープン、展示物の収集、その他の事業・イベントを行った。

○かかみがはら航空宇宙科学博物館リニューアル推進事業

- ・プレオープンの開始
収蔵庫に、JAXA等から借り受けた展示物や航空機操縦シミュレーター体験装置、リニューアル紹介パネルを設置し、公開。

- ・人工衛星等模型コンテストの実施
一般及び高校生を対象に「人工衛星・探査機模型コンテスト」を実施。優秀作品はリニューアル後の博物館に展示する予定。
- ・博物館のオリジナルグッズや教育プログラムの開発
国内外の類似施設における事例調査やグッズの試作品を製作。



岐阜かかみがはら航空宇宙博物館リニューアル後のイメージ

■各地域の魅力の源泉（人、景観、歴史、文化、まち、食、産業等）を活かしたテーマ別観光の推進

○産業観光ネットワーク形成推進事業

愛知県と連携して、両県の産業観光施設や代表的な観光施設をめぐるバスモニターツアーを実施することにより、観光施設の受入環境の整備やネットワーク形成を図った。また両県の産業観光施設の魅力を一体的にPRすることにより、観光誘客を促進し、両県の観光交流人口の拡大を図った。

- ・産業観光・武将観光PRパンフレット「見にとりっぴ・いくさとりっぴ」の作成
- ・産業観光施設等をめぐるバスモニターツアーの実施
7コース、合計215名参加

■二次交通の充実など、観光資源間の移動の利便性の向上

○養老鉄道及び沿線地域等の活性化促進事業

関ヶ原町及び養老鉄道沿線市町への来訪者の流動性・回遊性を高めるため、無料貸切バスの実証運行を実施した。

- ・無料巡回バス「養老関ヶ原めぐりバス」の実証実験を実施。
- ・運行期間：平成28年7月23日（土）～12月25日（日）の土日祝日
- ・乗降場所：養老駅前、関ヶ原駅前、関ヶ原ふれあいセンター前
- ・利用者数：1,071名

■「道の駅」を活用した魅力的な情報発信の推進

○圏域「道の駅」情報連絡調整会議の開催

「道の駅」において観光イベント情報等を効果的に発信するための関係者間の連絡・調整を行うことを目的とし、県内を4圏域に分け、圏域「道の駅」情報連絡

調整会議を開催した（年4回）。

○県や市町村が作成した観光・イベントの映像の放映による情報発信の強化

全圏域内の県保有のテレビモニターが設置されている「道の駅」13駅において、県や市町村の観光等に関連する映像を放映できるよう、新たに再生機器の整備を進めた。

○情報管理員の配置

上記の取組みを実施するために、昨年度に引き続き4名の情報管理員を配置し、情報発信の取組みを行った。

岐阜・西濃圏域：1名（揖斐土木事務所）
中濃圏域：1名（美濃土木事務所）
東濃圏域：1名（恵那土木事務所）
飛騨圏域：1名（高山土木事務所）

■周遊観光を促進する情報ツールの作成

○PRツール発行事業

岐阜県情報を発信し、旅行意欲を喚起するとともに、実際に県内を訪れた際のガイドブックとしても活用できるよう、季刊情報誌「岐阜っぽ。」を企画・作成し、県内外でのイベント等で配布したほか、県内市町村（観光協会等）、高速道路のサービスエリア、道の駅などで配布した。

（発刊概要）

- ・ 6月：夏号 12万部
- ・ 8月：特別号 5万部
- ・ 10月：秋号 8.8万部
- ・ 12月：冬号 22.8万部
- ・ 3月：春号 8.8万部

※秋号及び春号を雑誌じゃらん（東海版）に冬号をCheekにそれぞれブック・イン・ブック形式で綴じ込み、本誌とともに流通させたほか、個別に4万部を作成し、県内市町村や道の駅へ配布



夏号



特別号



秋号



冬号



春号

■広域連携による観光地域づくりの推進

○長良川流域における周遊・滞在型観光地域づくりの推進

県と岐阜市・関市・美濃市・郡上市の行政・観光団体が連携し、長良川上・中流域に存在する魅力的な地域資源の情報発信や着地型商品の造成など、周遊・滞在型の観光地域づくりに向けた取組みを推進した。

- ・主要観光施設における観光PRコーナーの設置
- ・長良川流域周遊ガイドブックの作成
- ・4市を一体的に紹介するホームページ「長良川STORY」による情報発信
- ・流域の観光施設を巡るモバイルスタンプラリーの実施
- ・観光資源を活用した着地型商品の造成
 - 鵜籠職人の竹編み講座等 計32プログラム
- ・交通事業者等と連携した滞在型商品の造成
 - 観光列車「ながら」を活用した「舞妓列車」の運行等 計12商品

○下呂・中津川広域観光ルートの創出

県と中津川市・下呂市が連携し、2027年のリニア中央新幹線開業時に本県の東側の玄関口となる「リニア岐阜県駅」から県内有数の観光地「下呂温泉」を結ぶ国道257号沿線の魅力創出に取り組んだ。

- ・旅行者の動向・動態を把握するためのマーケティング調査の実施
- ・地域資源を活用した体験プログラムの造成、土産物開発
 - ・体験プログラム造成 7事業者 13プログラム
 - ・土産物開発 8事業者 25品目
- ・かしも明治座における団体旅行者向け商品の開発 等

(2) 観光資源の更なる魅力向上

■自立的な観光地域づくりの推進

○観光資源ブラッシュアップ有識者派遣支援事業（「清流の国ぎふ」観光回廊づくり推進事業費補助金）

地域が主体的に行う地域資源のブラッシュアップの取組みを支援するため、地域からの要請に応じ、必要な有識者の派遣を行った。

- ・平成28年度派遣実績：1団体

○清流の国ぎふ推進補助金

平成28年度の「清流の国ぎふ推進補助金」メニューとして、新たに「世界遺産連携推進事業」及び「世界農業遺産人材育成事業」を創設し、世界遺産又は世界遺

産の国内候補に選定された遺産を活かした地域の魅力づくり等の取り組みに対して支援を行った。

- ・平成28年度交付件数：14件

○清流ミナモ賞の表彰

県内各地での「清流の国ぎふ」づくりの取り組みを一層盛り上げていくため、地域の魅力を大いに高め「清流の国ぎふ」づくりに多大な貢献をした6団体に「清流ミナモ賞」を授与した。



清流ミナモ賞授賞式

受賞団体名	主な活動
特定非営利活動法人飛騨・白川郷自然案内人協会	「天生県立自然公園と三湿原回廊」の自然保護と観光資源の両立を目的に活動
岐阜県地歌舞伎保存振興協議会	県内全29保存団体を取りまとめ、「飛騨・美濃歌舞伎大会」や、後継者育成につながる「伝承教室」を開催
岐阜障がい者アスリートクラブ	「ぎふ清流大会」を契機として、選手の育成や強化、活動意欲の向上を目的に定期的な指導を実施
ツアー・オブ・ジャパン美濃ステージ実行委員会	アジア屈指の国際自転車レースの1ステージを市民主導で運営
県立恵那農業高等学校園芸科学科シクラメン研究班	恵那市発祥のシクラメン栽培活性化のため、新品種の作出、販売・PR活動に取り組む
郡上漁業協同組合	釣り人と連携した画期的な出荷・発送を通じ、品質管理と安定供給を担い、「郡上鮎」を岐阜のブランドとして定着させる

■世界かんがい施設遺産の魅力向上

○世界かんがい施設遺産魅力アップ整備事業 曾代用水地区（美濃市・関市）

世界かんがい施設遺産に登録された「曾代用水」について、県内外から多くの観光客や視察者の訪問が予想されることから、主要施設に係る安全柵等の安全施設の改修や、案内看板など周辺施設の改修を実施した。

- ・川湊公園（美濃市）：案内板・安全柵・東屋・トイレ改修・駐車場改修等
- ・杵之戸分水（関市）：案内板・記念碑・安全柵・舗装更新・ゲート再塗装等



杵之戸分水：関市下有知地内

- 世界かんがい施設遺産環境整備事業 曾代用水地区（美濃市・関市）
 - ・曾代公園（美濃市）：案内板・東屋改修・水路改修等
 - ・曾代用水土地改良区事務所（関市）：案内板・駐車場舗装・進入口拡幅等

■世界農業遺産「清流長良川の鮎」の普及啓発

世界農業遺産「清流長良川の鮎」をPRするため、以下の取組みを実施した。

○ロゴマークの作成

- ・公募により世界農業遺産「清流長良川の鮎」のロゴマークを作成し、のぼり、ポスター、パンレットなど啓発資材に利用



○「G I A H S 鮎の日」の制定及び記念イベントの開催

- ・7月第4日曜日を「G I A H S 鮎の日」として制定
- ・初年度は7月24日（日）、河川環境楽園（メイン会場）及び流域4市（サテライト会場）において記念イベントを開催

<メイン会場>

- ・内水面漁業研修センター開所式及びワークショップ
- ・アクア・トトぎふにおいてG I A H Sの展示、映像放映、ポイントガイド
- ・鮎のつかみ取り・塩焼き体験イベント
- ・鮎のペーパークラフト教室
- ・鮎菓子の実演、販売
- ・ラッピングバスと記念撮影

<サテライト会場>

◇岐阜市

- ・鮎のつかみ取り・塩焼き体験、伝統漁具の展示・解説
- ・鵜飼の説明や観覧船乗船、造船所見学等を「鮎と水の文化体験ツアー」の実施

◇関市

- ・鮎の放流、鮎のさばき体験、鵜飼船頭体験、鵜匠邸バックヤードツアー、創作鮎料理教室

◇美濃市

- ・鮎釣り教室、鮎のつかみ取り・塩焼き体験、世界遺産パネル展示、鮎のぼり展示

◇郡上市

- ・記念グッズ配布、塩焼き体験、友釣り体験、友釣り選手権

○世界農業遺産「清流長良川の鮎」体感ツアーの実施

日 付：平成28年7月～平成29年2月

催行数：10コース（日帰り8コース、1泊2日2コース）

内 容：世界農業遺産に認定された「長良川システム」について理解を深めることを目的として、「鵜飼」「ヤナ」「瀬張り網漁」の漁業体験、紙漉き体験や寒ざらし見学を体感できるツアーを実施した。

○「清流長良川の恵みの逸品」認定制度の創設及び第1回認定

目 的：長良川の恵みに育まれた農林水産物や地場産品などを「世界農業遺産『清流長良川の恵みの逸品』」として認定する制度を創設し、天然鮎や農産物、鮎菓子、郡上本染など35品目を認定した。

認定日：平成28年11月28日（月）

○世界農業遺産国際シンポジウムの開催

日 付：平成28年11月28日（月）

場 所：ぎふ清流文化プラザ

内 容：記念講演：「東アジアにおけるG I A H S 地域の発展」

関 慶文 中国科学院地理科学・資源研究所教授

特別講演：「G I A H S 認定一周年を迎えた『清流長良川の鮎』の世界的意義」

八木 信行 東京大学大学院農学生命科学研究科准教授

パネルディスカッション「世界農業遺産の保全・活用と人材育成」

コーディネーター

永田 明 国連大学シニア・プログラム・コーディネーター

パネリスト

八木 信行 教授

林 浩昭 国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会長

森山 奈美 株式会社御祓川代表取締役

久津輪 雅 岐阜県森林文化アカデミー准教授

○あゆ王国ぎふ会議の開催

日 付：平成28年9月18日（日）

場 所：岐阜グランドホテル

内 容：

第1部「あゆ王国ぎふを語る会」

基調講演「釣り人の立場から考えた河川環境保全への取組」

内山 顕一 高知県友釣連盟代表理事

パネルディスカッション「鮎が持っている力を引き出すには－これまで

の取り組みと今後の展開について」

コーディネーター

森 誠一 岐阜経済大学教授

パネリスト

白瀧 治郎 郡上漁業協同組合参事

西脇 泰子 岐阜聖徳学園大学短期大学部准教授

長尾 伴文 岐阜の川人文化研究会代表

内山 顕一 高知県友釣連盟代表理事

第2部「清流めぐり利き鮎会」

◇「清流めぐり利き鮎会スペシャル in ぎふ」

高知県友釣連盟主催の利き鮎会（第11回～第18回）に入賞した河川によるチャンピオン大会

◇「岐阜の鮎の味めぐり」

県内産の天然鮎を利用した鮎料理及び鮎菓子等の試食会

■美濃和紙活性化の推進

○美濃和紙の需要拡大を図るため、美濃和紙ブランド価値向上研究会を開催（12回）

- ・新たな美濃和紙ブランドの認定基準の策定
- ・新たな美濃和紙ブランドを紹介するブランドブック及びロゴマークの制作

○新たな美濃和紙ブランドにふさわしい新商品の開発

新商品開発：5件、既存商品ブラッシュアップ：6件

○新たな美濃和紙ブランドをPRするための展示会の開催

開催日：平成29年3月21日（火）

開催都市：東京、岐阜、パリ、ミラノ、ニューヨーク

来場者数：延べ1,164人

メディア掲載：32社



ロゴマークの発表



会場の賑わう様子



展示会場の様子

■エコツーリズムの推進

県内の豊かな自然を保全しつつ、自然観光資源として活用しエコツーリズムを推進するため、関係団体等の活動を支援した。

○活動助成 6団体

- ・株式会社 美ら地球
- ・NPO法人 白川郷自然共生フォーラム
- ・石徹白地区地域づくり協議会
- ・NPO法人 福寿の里自然倶楽部
- ・みん・まち・美濃白川
- ・NPO法人 飛騨市・白川郷自然案内人協会

○エコツーリズム連携会議

- ・開催日 平成29年1月12日（木）
- ・場 所 中濃総合庁舎
- ・内 容 活動発表、意見交換会

○エコツーリズム経営セミナー

- ・開催日 平成29年1月12日（木）
- ・場 所 中濃総合庁舎
- ・内 容 講義、意見交換

■グリーン・ツーリズムの推進

豊かな自然や伝統文化とその恵みに育まれた農林漁業などの地域資源を活かし、岐阜県ならではのグリーン・ツーリズム（農村滞在型余暇活動）を推進するために、関係市町村及び関係団体と連携し、「受入体制の充実」と「情報発信力の強化」に取り組んだ。

○受入体制の充実

- ・ぎふグリーン・ツーリズムネットワーク揖斐川大会の開催

岐阜県内のグリーン・ツーリズム実践者と関係者の交流・連携を通じて、県全体のグリーン・ツーリズムの底上げを図った。

開催日：平成28年12月21日（水）、22日（木）

テーマ「山村の“味”を活かしたグリーン・ツーリズムをいかにデザインするか」

開催地：揖斐川町

○情報発信力の強化

- ・「ぎふグリーン・ツーリズム」の情報発信

「ぎふグリーン・ツーリズム」を多くの方に知っていただくため、メールマガジン「ぎふの田舎へいこう！」の配信、グリーン・ツーリズムPR冊子を活用した情報発信を行った。

また、グリーン・ツーリズム専用Webサイトを作成し、情報発信力を強化した。

■ローカル鉄道の魅力向上

○ローカル鉄道の利用促進対策事業

県内4ローカル鉄道が実施する企画列車やインバウンド対策等を支援。

- ・養老鉄道：薬膳列車夏冬キャンペーン、企画列車のPR等
- ・長良川鉄道：観光列車「ながら」お弁当付きプランの販売、企画列車のPR等
- ・明知鉄道：「あけてつサマーフェスティバル」開催、企画列車のPR等
- ・樽見鉄道：インバウンド対応車内放送設置、企画列車のPR等

○養老鉄道及び沿線地域等の活性化促進事業

養老鉄道及び沿線地域等に存在する地域資源を効果的に活用した企画事業を実施。

- ・クイズラリーやインスタグラムを用いたキャンペーン、酒蔵ツーリズムやアイドルグループイベント、モニターツアーを実施。

期間：平成28年8月～平成29年3月

- ・養老鉄道列車内で大垣養老高校の生徒が車内販売等を実施する大垣養老マルシェ列車及び大垣養老ランチ列車を運行。

開催日：平成28年9月10日（日）、10月15日（土）

■国内外に発信できる岐阜県ブランドの一翼を担う商品の開発支援

県内モノづくり企業の意欲的な商品開発プロジェクトを対象として、プロダクトデザイナーとのマッチングによるデザイン開発支援を行うことで、顧客（消費者）の視点に立った付加価値の高いモノづくり、品質・デザイン性・機能性に優れた国内外に発信できる岐阜県ブランド商品の開発支援を行った。

- ・開発支援を行ったプロジェクト件数：11件

■フードビジネス販路開拓推進事業

県内食品製造・加工業者の利益拡大と継続的な発展を図るため、下記商談会及び物産展を行い、清流の国ぎふをアピールしながら、県産品の販売促進に努めた。

【商談会】

ビジネス・サミット2016	平成28年6月9日（木）	名古屋市
FOODEX JAPAN 2017	平成29年3月7日（火）～10日（金）	千葉市
スーパーマーケット・トレードショー2017	平成29年2月15日（水）～17日（金）	千葉市

【県産品フェア】

三越伊勢丹日本橋本店・岐阜県フェア	平成29年3月22日（水）～28日（火）	東京中央区
-------------------	----------------------	-------

県観光物産展 in セントレア	平成 28 年 10 月 22 日（土）～31 日（月）	愛知県常滑市
イオン新瑞橋店「清流の国ぎふフェア」	平成 29 年 2 月 18 日（土）～20 日（月）	名古屋市

【セミナー】

販路開拓支援セミナー	平成 28 年 8 月 2 日（火）	岐阜市
------------	--------------------	-----

■「県産品愛用推進宣言の店」の指定

県産品愛用による地産地消を推進するため、県内産の食材を利用した料理を提供している飲食店や県内の商品を多数揃えた販売店を「県産品愛用推進宣言の店」に指定し、ホームページ等で広く県民に紹介した。

平成 28 年度は、新たに 11 店舗を指定し、現在 340 店舗（飲食の部：236 店舗（うち県外 2 店舗）、食品製造販売の部 26 店舗、販売の部 78 店舗）が「県産品愛用推進宣言の店」として県産品の利用拡大を行っている。

■県産品販売・情報発信拠点「THE GIFTS SHOP」の展開

平成 26 年 3 月に策定した「岐阜県成長・雇用戦略」において最重要プロジェクトに位置付けられている「県産品販路拡大・海外展開支援プロジェクト」として、県産品の大幅な販路拡大に取り組んだ。

○県産品販売・情報発信拠点の開設

平成 26 年 9 月に JR 岐阜駅に隣接する商業施設「アクティブ G」2 階に開設した県産品販売・情報発信拠点「THE GIFTS SHOP」において、陶磁器、紙、刃物・金属、木工・家具、繊維、食品、プラスチックといった県内の地場産業を中心とした県産品を、ライフスタイルを模したディスプレイにて販売した。

・販売点数 約 2,800 アイテム（平成 29 年 3 月現在）

○ショップ機能を活用した事業者に対する支援

「THE GIFTS SHOP」において、季節にあわせた特集や、地域や産業、県関連イベントなどにスポットをあてた企画コーナーを設置した。更に、ワークショップやテストマーケティングも定期的に行われ、県民や観光客に対する情報発信のみならず、事業者に対する販売・マーケティング拠点として、ショップの機能を活用した支援を行った。



「THE GIFTS SHOP」外観

■都内のセレクトショップと連携した県産品の販売強化

県内モノづくり企業の商品開発力向上、消費者直結型のビジネスモデル構築及び首都圏における販路開拓等の支援を目的に、都内でセレクトショップを経営するメイド・イン・ジャパン・プロジェクト(株)と締結（平成22年2月24日）した連携協力に関する協定に基づき、各種事業を実施した。

○県産品のテストマーケティング

首都圏の高感度な消費者の声や、在日外国人の来店が多い同ショップの強みを活かした外国人消費者の声を聴ける機会を提供することで、大都市圏のみならず、海外販売も視野に入れた県内モノづくり企業の商品開発力の向上を図り、また、異なる施設で実施することで商品のターゲット設定等の明確化を図った。

- ・海外・首都圏向けテストマーケティング

（10・11月の2か月間実施、販売実績21社64商品）

○マーケティングイベント

テストマーケティング期間中に参加県内モノづくり企業を対象として、モノづくりへの関心が高い首都圏の消費者や、各国大使館・外資系企業などの在日外国人及びその家族の方と直接交流し、意見交換を行うマーケティングイベントを開催。顧客（消費者）視点のモノづくりを推進するヒントを得る機会、商品価値伝達スキル向上の場を提供した。

- ・実施回数：1回
- ・参加企業：8社

○県産品常設販売コーナーの設置（通年）

セレクトショップに「岐阜県商品コーナー」を設置し、岐阜県産品のブランド発信を図った。



岐阜県商品コーナー



マーケティングイベント

■「飛騨・美濃すぐれもの」PR事業

産地の特性を活かし、安全性、品質等の基準を満たした優良な県産品を「飛騨・美濃すぐれもの」として認定し、県産品の看板商品としてPRするとともに、百貨店等の催事や各種イベントへの出店など、消費者と直結した販売戦略を展開した。

○「飛騨・美濃すぐれもの」の認定

- ・平成28年度認定商品：18点（新規10点、更新8点）
（※全65点 食品55点 非食品10点）

○認定商品の販売、PR支援

- ・県が開設する県産品アンテナショップ等での販売

「THE GIFTS SHOP」、「ジ・フーズ」及び「岐阜おみやげ川島店」において、認定商品の発表を目的とした期間限定の試食・実演販売等を実施するとともに、常設商品として、年間を通じて販売した。



ジ・フーズ店内の様子



THE GIFTS SHOP 店内の様子

- ・食のセレクトショップへの出品

JR秋葉原駅近くの「CHABARA（ちやばら）」の核テナント「日本百貨店しょくひんかん」に岐阜県コーナー「岐阜のすぐれものマルシェ」を出店し、岐阜県の魅力発信と認定商品の販売支援を行った。

出店商品：24点（21社）

- ・楽天市場「飛騨・美濃すぐれもの」ショップの出店
- ・商品の背景にある地域とのつながりなどの物語性と商品を紹介する冊子を作成し、PRを行った。

■県産農産物の魅力発信の強化

○Facebook「飛騨・美濃旬の味～岐阜うまいもの大集合～」の開設

平成28年度もFacebookを継続し、岐阜県の食や農産物の旬の味について、情報発信を行った。

- ・平成28年度実績：33回

○朝市・直売所の活性化

魅力ある農産物直売所づくり、安全・安心な農産物の生産拡大等に向け、朝市・直売所の運営者及び生産者等を対象に研修会等を開催した。

- ・平成28年度実績：県段階1回、地域段階20回

■農業の6次産業化の推進

○6次産業化に取り組む事業者の支援

自ら農畜水産物の加工・販売に取り組む農林漁業者を総合的にサポートする「6次産業化サポートセンター」を設置し、各種研修会の開催、商品企画やマーケティング、経営等に関する専門家の派遣を実施した。

○6次産業化商品の販路開拓

名古屋市栄の集客施設「オアシス21」に、6次産業化商品のブラッシュアップや新商品開発につなげるテストマーケティングを行う場として、アンテナショップ「ジ・フーズ」を設置・運営した(5/7~)。

■農産物のブランド力の向上と新たな特産品づくり

○野菜

- ・えだまめの生産安定や高品質化、生産拡大するにんじんの鮮度保持、ブロッコリーの新たな産地育成、朝市・直売所における搬送方法の改善による品質向上等を図るために、必要な機械・施設・資材等の導入を支援した。

○いちご

- ・県内外における消費宣伝PRイベントの開催を支援し、本県育成品種「濃姫」、「美濃娘」の配布や新品種「華かがり」の試食会を実施し、岐阜いちごの魅力を広くPRした。

○えだまめ

- ・収穫体験等イベントの開催を支援し、岐阜えだまめ及び産地の魅力をPRした。

○柿

- ・産地に対し、高糖度で外観品質の良い「袋掛け富有柿」の生産拡大に向け、必要な技術の普及に努めた。
- ・全農岐阜県本部と連携し、都市部の百貨店にて「袋掛け富有柿」、「果宝柿」の消費宣伝PRイベントを開催し、認知度の向上を図った。
- ・県育成品種「ねおスイート」のブランド化に向け、「ねおスイートブランド化協議会」を立ち上げ、今後の方針を協議した。

○くり

- ・県育成品種「えな宝来」「えな宝月」及び「ぼろたん」の生産拡大に向け、必要な技術の普及に努めた。
- ・県内のイベントにおいて「ぼろたん」焼き栗の販売を行い、認知度の向上を図った。

○飛騨・美濃伝統野菜

- ・県内で古くから栽培されており、特色のある野菜・果樹等を「飛騨・美濃伝統野菜」として認証している。PRパンフレットの配布、各種メディア・消費者に対して品目の情報提供を行うことにより、認知度の向上に努めた。

(3) 受入体制の強化・充実

■外国人観光客のおもてなし体制の向上

急増する外国人観光客のおもてなし体制の整備促進を図るため、観光事業者を対象とした意見交換会の実施など各種取組みを実施した。

○ムスリム観光客の受入体制の向上

インドネシアの旅行会社を招へいし、県内視察を行うとともに、県内観光事業者とハラール対応等に関する意見交換を実施（2月）。

○ムスリム観光客向けパンフレットの配布

海外旅行博等でムスリム観光客向けのグルメガイドを活用した県内への誘客活動を実施。

○免税店の拡大

市町村や商店街振興組合等の業界団体を通じた免税制度の周知、免税店登録の働きかけを実施した。

■外国人観光客受入環境の整備

県内事業者が行う Wi-Fi 整備、免税店開設、多言語化に必要な経費に対して財政支援を行う補助制度を創設し、増加する外国人観光客の受入整備を促進した。

・採択状況

種 別	件 数
消費税免税店開設	7
Wi-Fi環境整備	24
多言語化整備	11
合計	42

■外国人観光客向け県内飲食店情報の発信

県内飲食店のメニュー・食材情報の多言語化による情報提供を促進するため、メニュー多言語化システムを構築した。

■観光産業を支える人材の育成

○おもてなし人材育成研修の実施

本県を訪れる観光客の満足度及びリピート率の向上につなげるため、宿泊施設を始めとする観光産業事業者の従業員を対象におもてなし力の向上を図るスキルアップ研修を行った。併せて、観光産業人材の育成・確保のため、管理職向けにマネジメント研修を行った。

・スキルアップ研修（15回）、マネジメント研修（2回）

○観光地域づくりを担う人材育成研修の実施

「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりを先導する人材を育成するため、各地域の観光協会やまちづくり団体等のスタッフを対象に、観光マーケティングや効果的なプロモーション手法などを学ぶ実践的な研修を行った。

- ・座学研修（9回）、現地研修（1回）、特別セミナー（2回）

○バリアフリー観光の推進

誰もが安心して県内を旅行できる仕組みを構築し、新たな観光需要の創出による観光消費額の増加を図るため、岐阜県バリアフリー観光推進協議会を設立し、障がい者団体等と連携し、観光施設のバリアフリー状況を調査し情報発信するとともに、観光関係事業者を対象とした啓発セミナー等を開催した。

- ・観光施設のバリアフリー状況調査（約40施設）
- ・バリアフリー観光情報の発信
WEBサイト「ふらっと旅ぎふ」の開設 (<http://www.flat-gifu.com/>)
- ・バリアフリー観光セミナーの開催（1回）
- ・観光関係事業者を対象としたユニバーサルマナー検定の実施（2回）

2 大都市圏をメインターゲットとした国内誘客の促進

(1) 様々な情報媒体を活用した魅力発信

■各種メディア（雑誌や新聞、テレビ、映画など）を通じた魅力の発信

- PRツール発行事業（再掲）

■観光PRキャラバン隊事業

本県観光の情報を積極的かつ直接的に県内外に発信するため、観光キャラバン隊を編成し、各地で開催されるイベント等に派遣して、岐阜県観光の基本情報や旬な情報などを提供し、岐阜県の観光魅力のPRを行った。

- ・活動回数：年間計55回（関東6回、関西7回、東海42回）

■岐阜県観光ショールームの設置

首都圏及び関西圏における本県の認知度向上並びに本県への誘客を図るため、首都圏及び関西圏にショールームを所有する県ゆかりの企業と連携し、ショールームを活用した観光情報発信を行った。

○首都圏

- ・オークヴィレッジ(株) 東京都目黒区自由が丘2-15-22

「オークヴィレッジ東京」において、観光PRコーナーを設置するとともに、自由が丘の大規模集客イベントに共同出展し、観光PRを実施。

○関西圏

- ・(株)中島工務店 大阪市箕面市彩都粟生南1-17-26

関西岐阜県人連合会と連携し、(株)中島工務店が運営する「彩都やまもり」において、観光PRコーナーを設置した。

■岐阜フィルムコミッション事業の推進

岐阜県の新たな地域資源の活用や観光交流、地域振興につながるよう、映画やテレビをはじめとする映像作品を支援する「フィルムコミッション事業」を推進。

- 平成28年度には8作品の誘致・支援を行った。

(支援した主な作品)

- ・映画『君の膵臓を食べたい』

公開：平成29年7月

撮影地：北方町

- ・ドラマ『リーダーズ2』(TBS)

放送：平成29年3月26日(日)

撮影地：美濃市

(2) 集客に直結するキャンペーン・イベントの展開

■インターネット予約サイトPR事業

じゃらんnet および楽天トラベルにおいて、『清流の国ぎふ』めぐる旅キャンペーンを展開、県内宿泊施設が特別宿泊プランを造成・販売するとともに、販売促進のため特設ページの開設やメールマガジン配信などを行い、宿泊促進を図った。

[実績]

じゃらんnet 及び楽天トラベル合計

人泊数：3.5%増 取扱額：3.2%増（対前年比）

■ターゲット別国内誘客推進事業

地域ごとに誘客戦略を定め「清流の国ぎふ」めぐる旅のPR活動を展開。

- 首都圏 … 北陸新幹線の開通を契機とした新たな宿泊旅行客の獲得
 - ・ホテルグランドパレス岐阜グルメフェア開催（6月）
 - ・ツーリズムEXPOジャパン2016出展（9月）
 - ・楽天ふるさとフェスティバル（二子玉川ライズ）出展（10月）
- 関西圏 … 地理的な優位性を訴求する新たな宿泊旅行客の獲得
 - ・日本旅行Tis大阪支店（JR大阪駅構内）でのPR（10月）
 - ・JR東海と連携した誘客イベント（大阪駅隣接ディアモール）の開催（11月）
 - ・JTB店舗での岐阜県フェア開催（12月～1月、2～3月）
- 中京圏 … 旬な情報や新たなめぐり方の提案等によるリピーターの確保
 - ・JR名古屋駅イベント（3回〔5月、12月、3月〕実施）
 - ・中部国際空港における観光PRシート掲出（8月）
 - ・観光PRキャラバン隊による継続的な観光展実施（通年）（再掲）



ツーリズムEXPOジャパン2016出展



中部国際空港における観光PRシート掲出

■広域周遊観光の促進に向けた近隣県との連携

滞在時間の延長と観光消費の拡大及びリピーターの確保を目的に、近隣他県等と連携を図り、誘客を促進。

○富山県連携

- ・両県周遊旅行商品造成・販売
- ・NEXCO中日本と連携したドライブプランの造成、販売
- ・体験プログラムの造成・販売
- ・首都圏メディアのモニターツアーの実施
- ・旅行者移動実態調査の実施

○環白山広域観光推進協議会

- ・「ぐるっと白山周遊イラストマップ」の作成・配布
- ・クイズラリーの実施
- ・共同PRイベントの実施
- ・楽天トラベルと連携したプラチナルート・白山周遊キャンペーンの実施

○飛越能経済観光都市懇談会

- ・宿泊とレンタカーがセットになった旅行商品の造成・販売
- ・飛騨、越中、能登で開催される代表的なイベントへのブース出展

○愛知県との連携による産業観光ネットワーク形成推進事業（再掲）

■県内世界遺産を核とした観光プロモーションの展開

本県の「世界に誇る遺産」をテーマに誘客を促進した。

- ・「世界に誇る遺産」モニターツアーの実施（首都圏・関西圏・中京圏発）
- ・世界遺産等を組み入れた旅行商品の造成・販売支援
- ・地域が主体となって取り組む着地型観光プログラムの造成支援
- ・楽天トラベルを活用した「山・鉾・屋台行事」を核とした特別宿泊プランの造成・販売、同サイトにおける特集ページの掲載、メールマガジンやPR冊子の配布によるPR
- ・誘客キャンペーンイベントの実施
 - 東京ミッドタウン（2月）
 - 大阪ATC（2月）

■周遊観光を促進する情報ツールの作成（再掲）

■「飛騨・美濃すぐれものPR事業（再掲）」

■第6回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンの開催

シドニー五輪マラソン金メダリストの高橋尚子さんが大会長を務める「第6回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」を開催し、国内外の有名選手や全国からの一般ランナー約1万人、ボランティア約2千9百人が参加したほか、約15万人の観衆がメイン会場・沿道に繰り出した。大会では、本県の観光・食・モノを一体的にPRするイベントなどを併せて開催し、岐阜の魅力を全国に発信した。

- ・開催日：平成28年5月15日（日）
- ・参加者：11,482人（ハーフマラソン：10,454人、3km：1,028人）
- ・内容：岐阜県のB級グルメや県産品販売などの「楽市・楽座」を設置するとともに、高橋尚子さんのランニングイベント、サンプラザ中野くんのライブなど、多彩なステージイベントを実施。
- ・地元のまちづくり団体や商業団体などが、沿道応援やランナーへのおもてなし、関連イベントを主体的に実施。



道路を埋め尽くすランナー



川原町を走るランナー

■スポーツイベントの誘致

スポーツによる交流人口の拡大と地域の活性化を図るため、国際・全国規模のスポーツイベントを誘致・開催した。

○第70回全国レクリエーション大会 in 岐阜

開催日：平成28年9月23日（金）～25日（日）

場 所：岐阜メモリアルセンターほか

参加者数：66,602人（3日間）

○第35回全日本スノーボード選手権大会

開催日：平成29年3月7日（火）～17日（金）

場 所：ダイナランド、高鷲スノーパーク、鷲ヶ岳スキー場

参加者数：3,000人（11日間）

○第48回全国高等学校選抜ホッケー大会

開催日：平成29年3月24日（金）～3月29日（水）

場 所：川崎重工ホッケースタジアム

観客数：8,500人（6日間）



第70回全国レクリエーション大会 in 岐阜

■大規模イベント・コンベンションの誘致

観光消費額や宿泊者数の拡大など地域経済の活性化に寄与する大規模イベント・コンベンションの誘致・支援を行った。

○主な誘致活動

- ・第26回国際ミーティング・エキスポに岐阜県ブースを出展
実施期間：平成28年12月6日（火）・7日（水）
会 場：パシフィコ横浜

○開催を支援した主なイベント・コンベンション

- ・第26回 コーラスワークショップ in ぎふ
開催日：平成28年5月3日（火）～5日（木）
場 所：岐阜市
参加者数：1,174人
- ・公益社団法人日本薬剤学会第31年会
開催日：平成28年5月19日（木）～21日（土）
場 所：岐阜市
参加者数：1,038人
- ・第2回日本医薬品安全性学会学術大会
開催日：平成28年7月23日（土）・24日（日）
場 所：岐阜市
参加者数：570人
- ・第15回警察歯科医会全国大会
開催日：平成28年9月3日（土）
場 所：岐阜市
参加者数：486人
- ・第32回日本診療放射線技師学術大会
開催日：平成28年9月16日（金）～18日（日）
場 所：岐阜市
参加者数：2,630人

(3) 魅力ある旅行商品の造成促進

■北陸新幹線連携PR事業

北陸新幹線の開業により岐阜県へのアクセスが向上する首都圏を最重要ターゲットに設定し、飛騨地域観光協議会[北陸新幹線対策特別専門委員会]において、飛騨3市1村と共に北陸新幹線開業を契機としたプロモーションを展開。

○主要事業

- ・JR東日本「びゅう 飛騨」リーフレットの作成と首都圏「びゅうプラザ」店舗への設置
- ・JR東日本の首都圏の駅及び車内へのポスター掲出
- ・富山県と連携した旅行商品の造成

■NEXCO中日本連携PR事業

NEXCO中日本と連携し、高速道路を活用したドライブプランを造成・販売

○主要事業

- ・「速旅快走G（ギフ）割！岐阜県周遊ドライブプラン」

概要：岐阜県内の高速道路を定額料金でお得に乗り降りできる割引プラン
(通称：G（ギフ）割)

最終利用者数：2,765件

- ・「ぐるっと飛騨・富山ドライブプラン」

概要：富山県連携事業。飛騨地域から富山県内の高速道路を定額料金でお得に乗り降りできる割引プラン

最終利用者数：1,415件



快走G割！岐阜県周遊ドライブプラン

3 海外の動向を踏まえた誘客戦略の展開

(1) プロモーション活動の継続的かつ着実な展開

■海外誘客の促進

外国人観光客の岐阜県への誘客を促進するため、アセアン諸国（シンガポール、マレーシア、タイ等）や東アジア諸国（中国、台湾等）、欧州諸国（フランス・イギリス等）に加え、平成28年度はアメリカをターゲット市場に設定し、国の「ビジット・ジャパン」（VJ）事業や近隣県・関係機関との連携のもと、各種誘客事業を展開した。

○海外メディア・旅行エージェン트等の招へい、視察旅行へのアテンド

- ・実施件数：47件
- ・対応国：シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、韓国、中国、香港、台湾、フランス、イギリス、ドイツ、オーストラリア、アメリカ、イタリア、スペイン、カナダ、ニュージーランド

○岐阜県観光セミナーの開催

- ・タイ（5月）、アメリカ（9月）、フィリピン（10月）

○国際観光展への出展、海外での関係機関へのセールス活動

- ・シンガポール（10月、2月）
- ・マレーシア（9月、10月、2月、3月）
- ・タイ（5月、2月、3月）
- ・インドネシア（8月、3月）
- ・ベトナム（4月、5月、8月、11月）
- ・フィリピン（7月、10月、2月）
- ・中国（5月）
- ・台湾（5月、11月、3月）
- ・香港（6月、3月）
- ・韓国（6月）
- ・フランス（11月）
- ・イギリス（11月）
- ・アメリカ（9月、3月）
- ・スペイン（2月）



在タイ日本大使公邸での観光・食・モノレセプション



大手訪日旅行会社関係者との面談（ベトナム）

■欧米をターゲットとした新たなプロモーション

欧州からの誘客を図るため、プロモーションを26年度から開始したフランス、27年度から開始した英国に加え、米国において初めて大規模なプロモーションを実施した。

○在ニューヨーク総領事公邸での観光PRの実施（米国）

- ・開催日：平成28年9月7日（水）（ニューヨーク市内）
- ・内容：在ニューヨーク総領事公邸において、地歌舞伎の実演、日本酒、飛騨牛の試食等、観光・食・モノのPRを現地メディア、要人等に対し実施。
- ・来場者数：約100人

○ニューヨークのジャパン・ソサイエティでの観光PRの実施（米国）

- ・開催日：平成28年9月8日（木）（ニューヨーク市内）
- ・内容：日本に興味を持つジャパン・ソサイエティ会員に対し、地歌舞伎の実演、日本酒、飛騨牛の試食等、観光・食・モノのPRを実施。
- ・来場者数：約250人



ニューヨーク総領事公邸での地歌舞伎の実演



ジャパン・ソサイエティでの観光PR

○ニューヨーク・ジャパンウィーク2017への共同出展（米国）

「命のビザ」で知られる杉原千畝に関する共通の理念を有することがきっかけとなり、海外から岐阜県内への誘客を促進させるとともに、観光の振興及び地域活性化に資することを目的に、JTB 中部と海外からの誘客に関する連携協定を締結した。

本協定締結の第一弾として、杉原千畝氏にゆかりのあるユダヤ人が多く住む地域であり、また誘客の重要市場である米国において、ニューヨーク・ジャパンウィーク2017への共同出展などの連携事業を実施した。

- ・開催日：平成29年3月8日（水）～10日（金）（ニューヨーク市内）
- ・内容：米国の一般来場者に対し、観光PRを実施。
- ・来場者数：約23万人



JTB 中部と連携協定を締結



ジャパンウィークでの観光PR

■外国人観光客のおもてなし体制の向上（再掲）

（２）外国人向けの魅力的な旅行商品の造成・販売

■広域連携による外国人観光客の誘客促進

広域的な周遊性のあるルートの形成や近隣の港、空港からの広域的な誘客を促進するため、近隣自治体等と連携した各種事業を展開した。

○広域観光周遊ルートの形成促進

平成27年6月に国の認定を受けた中部エリアでの広域観光周遊ルート「昇龍道」について、ものづくり、サムライなどのテーマ性をもった広域観光周遊ルートとして磨き上げるため、近隣県と連携し、各種取組みを実施。

- ・広域周遊観光ルートの磨き上げに向けた事業計画の策定
- ・着地型商品の造成
- ・「山車・からくり」をPRするための米国メディア招へい（静岡県等連携）
- ・中国富裕層向けの雑誌社の招へい（富山県等連携） など

○近隣空港、港湾と連携した誘客活動

近隣の空港、港をゲートウェイとした誘客を進めるため、近隣自治体、空港会社等と連携した取組みを実施。

- ・クルーズ船社等へ訪問営業活動（石川県連携）
- ・クルーズ船社の招へい（名古屋商工会議所連携）
- ・中国旅行会社・メディア招へい（富山県連携）
- ・フィリピン旅行会社招へい（中部国際空港(株)連携） など

○中部広域観光推進協議会等の広域協議会を通じた広域連携の推進

広域的な誘客活動を行うため、近隣自治体と共に組織する各種広域観光推進協議会を通じた海外プロモーションを実施。

- ・台湾旅行博T I T F 出展（中部広域観光推進協議会）
- ・ジャパンフェスティバル in ベトナム出展（東海地区外国人観光客誘致促進協議会）
- ・台湾旅行商品提案会の実施（海外観光客誘客推進協議会） 等

(3) ターゲット市場の的確なマーケティング

■海外のマーケティング拠点づくり・海外販路開拓のパートナーづくり支援

○県の海外連携型アンテナショップにおける販売促進

県が実施している海外主要都市の小売店等と連携して県産品の継続販売を図る「海外アンテナショップ (Global Antenna Shop : G A S) 構築プロジェクト」により、シンガポールにおけるG A S店舗において、和紙、陶磁器のテストマーケティングならびにタイルの展示を実施。

日時： 平成29年3月15日 (水) ~ 29日 (水)

場所： 「Shop Tema Hima」 (Supermama 経営店舗)

「BCI EQUINOX SINGAPORE」 (シンガポールでタイルを取り扱う企業である ABK 社の出展ブース)



テストマーケティング



タイルの展示

■海外デザイナーとの連携による「岐阜ブランド」の発信

○ミラノ・サローネへの出展

スイスの著名デザイナーであるパトリック・レイモン氏が共同代表を務めるアトリエ・オイ社と連携し、「デザインの祭典」と称されるミラノ・サローネに、最も注目を集めると言われるミラノの Brera 地区のギャラリーを貸切る形で参加。展示会場名は「CASA GIFU」（意味：岐阜の家）とし、木工・家具、美濃和紙、刃物を中心とした新開発商品や、レイモン氏がセレクトしたヨーロッパでも通用する機能性とデザイン性を併せ持つ多くの商品をPRし、高い評価を得た。

開催期間：平成28年4月12日（火）～17日（日）6日間



「CASA GIFU」の会場

○メゾン・エ・オブジェへの出展

世界的なセレクトショップであるイギリス「THE CONRAN SHOP」の創始者 CONRAN 卿の長男で著名デザイナーのセバスチャン・コンラン氏と連携し、インテリア業界の「パリコレ」とも言われる「メゾン・エ・オブジェ」に平成29年1月に出展した。「SEBASTIAN CONRAN GIFU COLLECTION」と称し、美濃和紙、木工・家具、陶磁器、刃物を製造する県内企業とコンラン氏のコラボレーションにより開発した新商品を、生活空間を彩る最新のクリエイティブなデザインを持つ商品が集まる「ホール7 NOW」でPRし、好評を博した。

開催期間：平成29年1月20日（金）～24日（火）5日間



「SEBASTIAN CONRAN GIFU COLLECTION」の会場



バイヤー等との商談

■農畜水産物の輸出拡大

農畜水産物の輸出拡大に向け、プロモーションや現地調査を実施するとともに、アジア、欧州、北米において飛騨牛や富有柿、鮎についての現地交流会やフェアを開催した。

- ・平成28年度輸出実績 飛騨牛 24.6 トン、富有柿 43.6 トン、鮎 1.0 トン

<参考資料>

1 みんなでつくろう観光王国飛驒・美濃条例

平成19年7月9日公布
岐阜県条例第39号

みんなで作ろう観光王国飛驒・美濃条例

私たちは、古くから「飛驒の国、美濃の国」と呼ばれてきたこの岐阜県を愛してやみません。

この地は、春には桜色に包まれ、夏には深い緑におおわれ、秋には森は赤や黄色に染まり、平野は黄金色に輝き、冬には白く雪化粧をするなど、自然の生みだす五色の彩りに恵まれています。

この地には、日本人の心のふるさとの原風景がいたるところにあります。

この地は、日本の東西交流の中心地として、重要な歴史の舞台になってきました。地の利をいかした独自の文化が生まれ、商いも活発に行われてきました。

そして、太平洋側と日本海側を南北に結ぶ交通網が充実する今日、飛驒・美濃は、日本の東西南北の交流の中心として、明日の舞台になろうとしています。

おりしも、団塊の世代の人々の癒しや自らの再発見を求めたふるさと回帰が進んでいます。

さあ、飛驒・美濃にとって大交流時代の幕開けです。

日本のふるさとの良さをすべて持った飛驒・美濃が、県内外の人たちに癒しを与え、心にゆとりを与えるところとして輝くときです。

観光は、単に観光産業だけではなく、製造業、農林水産業など、幅広く地域経済へ効果をもたらす、すそ野の広いものであり、みんなで大切に育てるべきものです。こうした観光による交流を広げる取組は、明日のふるさとづくりにつながります。

飛驒・美濃には、森林、河川、温泉などの素晴らしい自然、歴史、文化、産業など、日本の貴重な財産として、世界に誇れるものが満ちあふれています。

私たちは、自信を持って、各地から多くの人たちにこの地へ観光に訪れていただくため、総力をあげて、飛驒・美濃のじまんを知ってもらい、見つけだし、創りだす飛驒・美濃じまん運動を進めます。そして、飛驒・美濃を、誇りの持てるふるさとへと発展させていくため、観光王国飛驒・美濃を私たちみんなで作ります。

(めざすもの)

第一条 私たちは、飛驒・美濃のじまんを知ってもらい、見つけだし、創りだす飛驒・美濃じまん運動(以下「じまん運動」といいます。)に取り組むことで、観光産業を基幹産業として発展させ、もって飛驒・美濃の特性をいかした誇りの持てるふるさとをつくります。

(合い言葉)

第二条 私たちは、「知ってもらおう、見つけだそう、創りだそう ふるさとのじまん」を合い言葉に、じまん運動にみんなで行います。

(県の役割)

第三条 県は、じまん運動についての総合的な施策を定め、計画的に取り組みます。

- 2 県は、県民、市町村、観光事業者、観光に関する団体などが、共通の認識のもとお互い連携できるよう、総合的な調整を行います。
- 3 県は、道路をはじめとした交通網など、観光に必要な基盤を整備します。

(じまん運動を進めるしくみ)

第四条 県は、じまん運動の方向性などを検討するしくみとして飛騨・美濃の観光を考える委員会(以下「委員会」といいます。)をつくります。

- 2 県は、飛騨・美濃全体にかかわるじまん運動を進めるしくみとして飛騨・美濃じまん県民会議(以下「県民会議」といいます。)をつくります。
- 3 県は、市町村などと協力して、それぞれの地域で、じまん運動を進めるしくみとして飛騨・美濃じまん地域会議(以下「地域会議」といいます。)をつくります。
- 4 県民会議と地域会議は、一体となってじまん運動を進めます。

(知ってもらおうふるさとのじまん)

第五条 私たちは、ふるさとのじまを県内外の人たちに知ってもらうため、あらゆる機会を利用して積極的に情報を発信します。

- 2 私たちは、豊かな風土に育まれた農林水産物、匠の技により作りだされた地場産品などを積極的に活用するとともに販売します。

(見つけだそうふるさとのじまん)

第六条 私たちは、ふるさとの隠れたじまを見つけたすため、ふるさとについて学びます。

- 2 私たちは、次の時代を担う子どもたちがふるさとに誇りを持つことができるよう、学校、地域、家庭などさまざまなところでふるさと教育を進めます。

(創りだそうふるさとのじまん)

第七条 私たちは、ふるさとのじまを素敵なものに育てるとともに、新しいふるさとのじまを創りだします。

- 2 私たちは、地場産業や地域産業が活発になるよう、ふるさとの特性をいかしたブランド力のある商品の開発に取り組みます。

(おもてなしの心)

第八条 私たちは、「いい旅 ふた旅 ぎふの旅」をキャッチフレーズに、飛騨・美濃に一人でも多くのお客様に何度でもお越しいただき、楽しんでいただくため、一人一人がおもてなしの心でお客様をお迎えします。

(美しい自然を守る観光)

第九条 私たちは、豊かで美しい自然を守るとともに、自然を観察したり体験しながらそのしくみを学び、大切にする観光を積極的に進めます。

(ふるさとの文化にふれる観光)

第十条 私たちは、古いまちなみや素晴らしいふるさとの文化などを大切に、後世に伝えるとともに、お客様にこの文化にふれていただける観光を積極的に進めます。

(ものづくりの心にふれる産業観光)

第十一条 私たちは、伝統技術を持つ匠の技や歴史的・文化的な価値の高い工場、機械設備などのものづくりの現場や製品などを通じて、ものづくりの心にふれる産業観光を積極的に進めます。

(周りの地域や団体との連携)

第十二条 私たちは、一人でも多くのお客様にお越しいただけるよう、周りの地域や広域的な観光に関する団体と連携し、協力してお客様をお迎えします。

(世界中の人たちとの交流)

第十三条 私たちは、観光施設の案内や表示をできるだけ多くの言語で書き表すなど、外国からのお客様に心から楽しんでいただけるよう心がけます。

2 県は、世界中から多くのお客様にお越しいただけるよう、外国との文化・経済交流、青少年の交流などを積極的に応援します。

(お客様にやさしいまちづくり)

第十四条 県は、市町村などと協力して、バリアフリーのやさしいまちづくりを進めるなど、年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、お客様に楽しくすごしていただけるよう心がけます。

2 私たちは、観光施設のトイレをきれいにするなど、お客様に気持ちよく観光をしていただけるよう心がけます。

(飛騨・美濃じまんの日)

第十五条 県は、8月21日を飛騨・美濃じまんの日とします。

(飛騨・美濃じまん運動実施計画)

第十六条 県は、じまん運動を計画的に進めるため、飛騨・美濃じまん運動実施計画を定めます。

2 県は、飛騨・美濃じまん運動実施計画を定めるときや変更するときは、委員会と県民会議の意見をききます。

(飛騨・美濃じまん白書)

第十七条 県は、毎年度、じまん運動の成果を白書としてまとめ、評価や検証をし、次の運動につなげていきます。

(その他)

第十八条 この条例に定めることのほか、必要なことについては、知事が定めます。

附 則

1 この条例は、平成十九年十月一日から施行します。

2 岐阜県観光審議会設置条例（昭和四十二年岐阜県条例第三十八号）は、廃止します。

2 「清流の国ぎふ」憲章

清流の国ぎふ憲章

～ 豊かな森と清き水 世界に誇れる 我が清流の国 ～

岐阜県は、古来、山紫水明の自然に恵まれ、世界に誇る伝統と文化を育んできました。豊かな森を源とする「清流」は、県内をあまねく流れ、里や街を潤しています。そして、「心の清流」として、私たちの心の奥底にも脈々と流れ、安らぎと豊かさをもたらしています。

私たちの「清流」は、飛騨の木工芸、美濃和紙、関の刃物、東濃の陶磁器など匠の技を磨き、千有余年の歴史を誇る鶺鴒などの伝統文化を育むとともに、新たな未来を創造する源になっています。

私たち岐阜県民は、「清流」の恵みに感謝し、「清流」に育まれた、自然・歴史・伝統・文化・技をふるさとの宝ものとして、活かし、伝えてまいります。

そして、人と人、自然と人との絆を深め、世代を超えた循環の中で、岐阜県の底力になり、100年、200年先の未来を築いていくため、ここに「清流の国ぎふ憲章」を定めます。

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

知

清流がもたらした
自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます

創

ふるさとの宝ものを磨き活かし、
新たな創造と発信に努めます

伝

清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

平成26年1月31日 「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議

平成29年度版 飛騨・美濃じまん白書

～平成28年度 飛騨・美濃じまん運動の進捗について～

岐阜県 観光国際局

平成30年2月